

★ Kioto-Esperanto-Societo Kioto-Esperanto-Societo Kioto-Esperanto-Societo★

Al Vi Kara

★ Kioto-Esperanto-Societo Kioto-Esperanto-Societo Kioto-Esperanto-Societo★

N-ro 102, januaro 2012



Drako estas la animalo de la jaro 2012 laŭ la antikva ĉina kalendaro. La drako-forma akvo-kondukilo troviĝas en la templo “Jamazaki Sooten” (山崎聖天) en la urbeto Oojamazaki (大山崎). Tie vizitantoj lavas siajn manojn antaŭ kultado.

La tabulo pri Drako de la ŝintoisma templo “Nagaoka Tenmanguu” (長岡天満宮) en la urbo Nagaoka-kyoo (長岡京) povas doni al vi feliĉon en la jaro 2012.



Fotoj: KAWAGOE Kan

☆ ENHAVO ☆

Ni vigle agadas en Kioto ! (活動報告)

2011年

7月：第96回世界エスペラント大会への参加	p. 3
7月：第84回SAT大会への参加	p. 3
9月：第43回林間学校への参加	p. 3
9月28日(水)例会へのお客様	p. 4
10月：日韓共同開催エスペラント大会への参加	p. 5
10月：京都府国際センターでの国際活動パネル展	p. 6
11月3日：野田淳子ふれあいコンサート	p. 7
11月：第12回中国・四国エスペラント大会への参加	p. 7
12月3日：ザメンホフ祭	p. 8
アメリカ人の私が、エスペラントに出会って (スコット・パークス)	p. 10
自己紹介 (中川 邦彦)	p. 14
エスペラントとの出会い (茶谷 忠夫)	p. 15
「国際語」「世界共通語」「民際語」「地球語」 (相川 節子)	p. 17
Epokfara kongreso vere komuna inter 2 landoj (SASANUMA Kazuhiro)	p. 18
京都観光案内 Turismaj informoj pri Kioto (2) (Aikawa Setuko)	p. 21
Mia sepdekjariĝo (TAHIRA Masako)	p. 24
Prezentado de la urbo OOJAMAZAKI (KAWAGOE Kan)	p. 27
エスペラント会館での定例の会合	p. 28



★ Ni vigle agadas en Kioto ! ★

このコーナーは、京都エスペラント会の月刊の活動情報紙「事務局通信」（川越 幹さん編集）やブログ（http://d.hatena.ne.jp/esperanto_kioto/）の記事を元に、主な活動を紹介するものです。

★ 2011年7月：第96回世界エスペラント大会への参加

第96回世界大会(La 96a Universala Kongreso de Esperanto)は2011年7月23日(土)～30日(土)、コペンハーゲン(デンマーク)で開催され、1458人(66カ国)が参加。うち、日本からは107人。

京都エスペラント会から、中川邦彦さん、田平正子さん、山本鳩江さんが参加されました。



コペンハーゲン市内に掲げられた横断幕

★ 2011年7月：第84回SAT大会への参加

第84回SAT(Sennacieca Asocio Tutmonda 世界無民族性協会)大会は2011年7月30日(土)～8月6日(土)、サラエボ(ボスニア・ヘルツェゴビナ)で開催されました。

京都エスペラント会から、小橋良太郎さん、田平正さんが参加されました。

★ 2011年9月：第43回林間学校への参加

第43回エスペラント林間学校(La 43a Friska Lernejo)は2011年9月17日(土)～19日(月・祝日)にエスペラント会館(京都エスペラント会の例会会場)で開催され、42人が参加されました。

京都エスペラント会からは次の8人の方々が参加されました。

高木宣幸さん、水渡篤子さん、野田淳子さん、光川澄子さん、中川邦彦さん
相川節子さん、(分科会のみ) 田平正子さん、森川和徳さん

★ 2011年9月28日(水)例会へのお客様

Ni havis gastojn en ambaŭ kunvenoj: la taga kaj la vespera.

今日は、昼例会と夜例会の両方にお客さまがきてくださいました。

En la taga kunveno partoprenis s-ro Scott Parks el Usono. Li estas studento de universitato Stanford en Kalifornio. Nun li studas en Kioto; li restos tie dum kelkaj monatoj. Li tre bone parolas ankaŭ en la japana lingvo. Ni parolis kaj en Esperanto kaj en la japana.

昼例会には、アメリカからスコット・パークスさん。カリフォルニアにあるスタンフォード大学の学生さんで、現在京都に留学中。数ヶ月滞在されるそうです。日本語を使いこなしておられ、この日は日本語とエスペラントの両方で話しました。

※その後、パークスさんは京都エスペラント会の会員になられました。10ページの
記事も参照してください。

En la vespera kunveno partoprenis Sundari Mica, japanino loĝanta en Nepalo. Ŝi administras lernejon de la japana lingvo en Nepalo. Aliflanke ŝi estas kantistino. En la kunveno ŝi kantis nepalan popolkanton en tri lingvoj: nepala, japana kaj Esperanto.

夜の例会にはスンドリ・ミカさん。日本人女性ですが、ネパールに住んでおられます。日本語学校を運営する一方、歌手としても活躍中。ネパールの民謡を、ネパール語・日本語・エスペラントの三言語で歌ってくださいました。

(記：相川節子さん)



スンドリ・美香さんは左から2人目の方

★ 2011年10月：日韓共同開催エスペラント大会への参加

2011年10月7日(金)～9日(日)、韓国・城南市(ソウルの南西、ソナム市)の韓国セマウル運動中央研修院にて、第98回日本エスペラント大会と第43回韓国エスペラント大会が共同開催されました。同時に、第30回東アジア青年合宿(Komuna Seminario)も開催されました。参加者は、不在参加者や欠席者を含めて、500人ちようど。実際の参加者も319人と多数でした。(↓開会式の写真)



京都エスペラント会からは次の5人の方々が参加されました。

光川澄子さん、中川邦彦さん、田平正子さん、森川和徳さん、笹沼一弘さん
(18ページの笹沼さんの報告もご覧ください。)



田平正子さん(右)はオークションをされました。左の男性は So Jin-su さん。写真の品物(ESPERANTOの横断幕)は、世界大会の横断幕(3ページ参照)を切り抜いたものです。

★ 2011年10月：京都府国際センターでの国際活動パネル展

Panela Ekspozicio pri Esperanto en Kioto-gubernia Internacia Centro

2011年10月20日(木)～28日(金) [25日休み] 午前10時～午後6時、京都府国際センター(京都駅ビル9階)で恒例のパネル展示を行いました。展示内容は、世界大会と日韓共同開催大会の紹介など。

10月26日には京都新聞から取材に来られ、10月27日の京都新聞にカラー写真入りで紹介されました。



京都新聞 2011年10月27日付け記事

★ 2011年11月3日：野田淳子ふれあいコンサート

2011年11月3日(木・祝日)午後1時～4時、吹田メイシアター小ホールで吹田エスペラント会主催で開催され、野田淳子さん(京都エスペラント会、右の写真)がコンサートを行われました。司会は後藤美和さん(京都エスペラント会)。

2部構成で、第1部では「すべてがおくりもの」「アリラン」「朝露」などを日本語・エスペラント・韓国語で歌われました。第2部では、金子みすゞの詩に野田さん自身が作曲したものを歌われました。最後に、全員が「大きなうた」をエスペラントで歌いました。



★ 2011年11月：第12回中国・四国エスペラント大会への参加

2011年11月12日(土)～13日(日)、サンロード吉備路(岡山県総社市の国民宿舎)で開催され、70人(不在参加16人を含む)が参加されました。

京都エスペラント会からは、光川澄子さん、中川邦彦さん、田平正子さん、野田淳子さん、スコット・パークスさん(5人)が参加されました。

プログラムでも、野田さんの歌と歌唱指導、田平さんのオークション、スコット・パークスさんの話すと、京都エスペラント会の会員が活躍しました。

左から

1人目：中川さん

4人目：田平さん

5人目：スコットさん



★ 2011年12月3日：ザメンホフ祭

京都エスペラント会・宇治城陽エスペラント会・近江エスペラント会のザメンホフ祭は、2011年12月3日（土）13:30～16:30に大山崎ふるさとセンター（京都府乙訓郡大山崎町）で開催されました。京都エスペラント会から15人、宇治城陽エスペラント会から3人、近江エスペラント会から4人、他のエスペラント会から5人、計27人が参加されました。過去数年では最多の参加者数でした。

大山崎町は京都府の西端の小さな町（人口15,000人）ですが、京都エスペラント会の会員が2人います。大山崎ふるさとセンターの近くにJRと阪急電鉄の駅があり、交通が便利です。川越幹さんのご努力で、今回のザメンホフ祭は大山崎町の後援をいただき、大山崎町の20ヶ所以上にポスターを貼っていただきました。残念ながら、一般の方の参加はありませんでしたが、エスペラントの宣伝になったと思います。



大山崎町広報板



「ザメンホフ祭」の字が小さかったため、あまり目立たなかったのは残念。

ザメンホフ祭は笹沼一弘さん（京都エスペラント会会長）の司会で始まり、最初に野田淳子さんの歌唱指導により“La Granda Kantado”（「大きなうた」のエスペラント訳）を全員で歌いました。次は、同志社大学への留学生 Scott Parks さんが和服を着て流暢な日本語で「アメリカ人の私がエスペラントに出会って」という題で話されました。ScottさんはアメリカのStanford大学の学生でエスペラントはインターネットで独習し、Stanford大学でエスペラントと人工言語のクラブをつくられました。そのクラブでは人工語を自ら作る人もいるという興味深いことを伺いました。

その後に、全員が自己紹介を行い、休憩。休憩中に図書販売が行われ、2万円余りの売り上げがありました。



全体写真

休憩後は、岡部明海さんが「楽しかった国際青年エスペラント大会（キューバ、ウクライナ、そして天理へ）」という題で、キューバとウクライナの国際青年大会を写真やビデオで紹介し、来年（2012年）の天理での国際青年エスペラント大会への参加と協力を要請されました。

その後は飛び入りコーナー。成田和子さんの日舞・祇園小唄を踊られ、茶谷忠夫さんが大型絵本をエスペラントで読まれました。川越幹さんは大山崎町を紹介。上月富佐子さんは落語。今回は日本語での落語でしたが、EPA(エスペラント普及会)の越年合宿(12/30～1/2)ではエスペラントで落語を披露されるとのこと。



茶谷さんの大型絵本



川越さんの大山崎町の紹介

ザメンホフ祭の終了後、Scottさんが12月中に米国に帰られるため、そのお別れの会を喫茶店で行い、11人が参加しました。 (2011-12-04 森川和徳)

アメリカ人の私が、エスペラントに出会って

スコット・パークス

皆様、こんにちは。本日お話をさせて頂き、非常に光栄に思っております。エスペラントでも日本語でもペラペラとは話せませんので、私の不自然な日本語をお許しください。



私はアメリカはカリフォルニア州にあるスタンフォード大学の三年生です。東アジア言語文化学部という学部で、日本語を専攻しています。今、同志社大学で勉強していますが、クリスマスの前に帰国します。その前に、今日、アメリカ人として、私の歩いているエスペラントの道について少し話させていたいただきたいと思っています。

エスペラントはいわゆる国際補助語であります。世界には、J・R・R・トールキンが作成したエルフ語を始め、スター・トレックのクリンゴン語や論理的なロジバンという言葉などの様々な人工言語が存在しています。その中で、エスペラントが一番多くの人々に話されているとされています。ところが、実際はエスペラント使用者はめったにいませんし、日本のエスペラントの活動は割と盛んなのに、日本でもエスペラントを聞いたことさえない人が少なくないと思います。特に、英語が話されているアメリカでは、エスペラントの活動が弱いです。エスペラントに限らず、そもそも外国語を勉強する必要はないと普通に思っているアメリカ人が多くいます。

そんなアメリカに住んでいる私はどうやってエスペラントに出会ったのか。それは、高校生の最後の年でした。「セオリー・オブ・ナレッジ」(Theory of Knowledge)というコースを取っていました。「セオリー・オブ・ナレッジ」は日本語で「知識の学説」

[編集部より]

2011年12月3日のザメンホフ祭(8ページ参照)にて、スコットさんが上記の題名で話されました。その原稿をいただき、掲載しました。人名の訂正を除き、編集部では原稿にほとんど手を加えていません。

のような意味だと思いますが、いわゆる認識論という分野に似ていると思います。その授業ではどうやって人間は知識を得るのかを調べていました。そこで勉強したことの1つは、言語、そして人が話せる言語と人の考え方はどういう風に影響し合うのかということでした。ある日、先生はエスペラントという言語を紹介して下さいました。その先生はエスペラント使用者ではなかったんですが、言語の例の1つとしてエスペラントを挙げました。

簡単なエスペラントの説明を聞いてすぐに、好きになりました。平和と国際交流を大切にしているエスペラント使用者の価値観がとても良さそうでした。それに、学びやすいように作られたので、例外などがないし、単語も少ないし、文法も簡単だし、立派だなぁ～と思いました。その時、大学で言語学を専攻したいと思っていましたので、エスペラントは言語学者の視点からいっても、便利だろうなと思いました。

アメリカの高校と大学は6月に終わって、9月に始まります。それで、高校を卒業して、大学に入る前の夏休みが始まりました。気が付いたら、インターネットで本気でエスペラントを勉強していました。夏の終わりのころ、長い間日本語を勉強していたくせに、その一夏のエスペラントの勉強だけで、私のエスペラント能力は日本語並みになったと思いました。誰かが自分の日本語の勉強に注いだ努力を認めてくれなかったような感じでちょっと悔しかったですけど、エスペラントの易しさと音楽や文学などを発見出来て、興奮しました。



ザメンホフ祭 (2011年12月3日) にて

しかし、スタンフォード大学に入ってみると、すぐ忙しくなってエスペラントの勉強をあまりしなくなりました。完全にやめたというわけではありませんが、普段の勉強、友達との交友、部活動などがあって、エスペラント以外の興味が広がりました。そんな中、スタンフォード大学で集まっているエスペラント会を見つけました。多くのメンバー達はキャンパスの周りの地域から来て、私みたいな学生は1人しかいませんでした。その学生の名前はメリッサ(Melissa)で、彼女とすぐ友達になりました。メリッサとエスペラントで話し合ったり、暇がある時にそのエスペラント会の集まりに行ったりしましたが、エスペラントは上達しませんでした。二年生の時に、メリッサとエスペラントと人工言語のクラブを開催しました。何人かの学生を勧誘して、クラブに入ってもらいました。でも、エスペラントだけに興味がある新入生はいませんでした。多くの人はエスペラントだけではなくて、言語、人工言語や人工言語作りに興味がありました。つまり、いわゆる Esperantistoj (エスペラント使用者) は私とメリッサしかいませんでした。今も、私が日本で留学している間も、このクラブは活動しています。

そして、今年の6月に来日。最初に、東京で働きました。日本語を勉強するために日本に来ましたから、エスペラントより日本語を優先していました。当然次第にエスペラントの興味が減ってきました。でも、9月に京都に来まして、京都エスペラント会をネットで見つけました。初めて京都エスペラント会の集まりに行った日は、私のエスペラントとの「さいかい」だったと思います。この「さいかい」というのは、再び会うという意味で、再び始めるという意味もあります。京都エスペラント会の皆様は本当に優しくしてくださっています。この着物も野田淳子さんから頂いた物です。その上、岡山県で行われた第12回中国・四国エスペラント大会にまで誘って下さいました。

この大会は私の初めてのエスペラント大会でした。いろいろな人に出会えて、楽しくて充実した週末でした。4人の中学生もいました。日本のエスペラント使用者のやる気と温もりを感じて、感動しました。そこで、日本青年エスペラント連絡会の代表の岡部明海さんに出会って、世界青年エスペラント大会についていろいろ聞かせていただきました。その話は大変興味深く、色々考えた末に、どうしても来年の奈良県の天理市で行われる世界青年大会に行きたくなりました。

(間)

この、他のエスペラント使用者と話し合ったり、対応したりすることこそが現代のエスペラントの意味なのです。国際交流、国際文化、とエスペラントの samideanoj, homaranismo, egaleco,そして akcepteco。エスペラントの元々の目的は世界の国際通

信のための言語になる事でした。でも、英語がすでに国際言語になったんじゃないかと言っている人が多いと思います。では、エスペラントは負けたということでしょうか。そうではないと思います。人類の言語になったというものではないんですが、未来はどうなるか分からないし、世界中でエスペラントの文化は栄えつつあります。今日みたいにエスペラント使用者が集まっている限り、エスペラントは大成功なんではないでしょうか。二年半前にエスペラントを勉強し始めましたが、まだ初心者だと思います。でも、こんな私でも、もう京都でエスペラントの楽しさとエスペラント使用者の暖かさを感じました。私が経験したこの楽しさを、他の人にも伝えたいのです。

自分のエスペラントの将来に関し、希望がたくさんあります。日本で出会ったエスペラント使用者のおかげでインスピレーションを得て、エスペラント界に貢献したくなりました。エスペラント使用者の集まりでお手伝いをしたり、雑誌の記事を書いたり、パスポルタ・セルボに登録したりしたいと思います。パスポルタ・セルボをご存じない方がいらっしゃるかもしれませんので、ご説明しますが、パスポルタ・セルボというのは、旅行する時に、世界中のエスペラント使用者の家に受け入れてもらえるサービスです。宿泊費も払わないで済むし、新しい友達も出来るので、エスペラントのいい特徴の1つだと思います。私はパスポルタ・セルボで旅行したり、他のエスペラント使用者を受け入れたいと思います。そしていつか、エスペラントに関する言語学の研究も出来ればいいなと思います。

それから、今までのエスペラントの経験から知った意味の1つを紹介したいと思います。それは外国語学習の大事さです。もちろん多くの方々にエスペラントを勉強して欲しいですけども、エスペラントではなくても、外国語を学ぶのは重要なことだと思います。前にも言ったと思いますが、多くのアメリカ人は外国語を勉強する必要はないと思っています。私の聞く限りでは、同じ考え方を持っている日本人も多いです。自分の生活に必要な物は全部国内で手に入れられるので、なんで外国語を勉強しなければならないのと考えている人の気持ちは分かります。ただし、外国語学習は一生追求するに足る行為だと信じています。母語ではない言語を勉強すると、われわれ人間が住んでいる世界を見れる視点がもう1つ得られます。考え方が広がります。楽しめる文化も広がります。私は日本語を勉強しているため、この素晴らしい留学の経験も、今日ここでこの話も、出来ました。それで、アメリカ人であれ、日本人であれ、世界の皆様に、エスペラントではなくても、何か外国語を、そして出来ればエスペラントも、勉強していただければいいなと思っています。

ご静聴ありがとうございました。

(終)

自己紹介

中川 邦彦

京都エスペラント会の会計をさせていただきます。

Mi eklernas Esperanton antaŭ 3 jaroj.

エスペラントで長崎へ プサンへ 神戸へ デンマークへ ソウルへ 岡山県総社市へと色々のところへ。

旅行できて楽しい思い出ができました。特に韓国は45年前と比べて山も国も街も自動車もきれいになつてました。

デンマークは初めての欧州旅行でハプニングもあったが楽しかった。総社市は生まれ故郷なので懐かしく思えた。

年末には亀岡での越年研修会に参加して神頼みでなく頑張ってみようと思う。

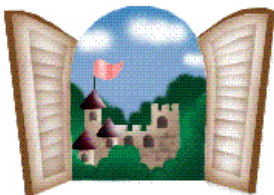
来年には **PASPORTA SERVO** に登録して369人のエスペランチストの宿としてお世話することを目標にしています。なぜ369人か？ミロクとは仏教用語で理想社会のことでエスペラントとよく似ています。

田平さんの紹介で、今までに、インド人 パルさん、韓国人 ヴェーラさんと姪御さん、中国人 ローザさん、ドイツ人 新婚さん、ベトナム人 ホンさん、合計7人が泊まってくださりました。

後362人。日本人、外国人エスペランチストならどうぞ来てください。

一人住まいなので食事はできませんが、トイレ・ベッド・シャワー・布団はあります。エスペラントで各地に行きましたが、来年もあちこちに行ってみようとおもいます。

(2011年12月9日)



エスペラントとの出会い

茶谷 忠夫

私のエスペラントとの出会いは、名古屋エスペラント会の由比忠之進さんがベトナム戦争におけるアメリカの北爆を支持する日本政府（佐藤栄作首相）に対し、（一般市民が）自己の死（焼身）をもって抗議した（wikipedia 参照）という内容の朝日新聞の記事からであったと思います。

すでに中学の教科書に Zamenhof の伝記が載っていたという人がいますし、大学時代に私がエスペラントを学んでいたという人もいますが、どちらも記憶が無く、やっぱり中学3年生の時に見た由比さんの新聞記事に、エスペラントあるいはエスペランティストという言葉を見出したのが、最初であったろうと思います。

そして、高校、大学を経て何も知らぬまま社会人になった2、3年目のある日、朝日新聞（我が家は朝日1紙のみ購読）に、小さな初心者入門講習会の案内記事があって、由比さんのことを思い出し、エスペラントがどんなものかと勤労会館に京都エスペラント会の例会を訪ねてみました。そこから、第一歩が始まりました。

いつも思うのは、由比さんの死は何だったのだろうかということです。

日本という国に、米軍基地があり、沖縄の問題、アイヌの問題、在日の問題、被差別部落の問題、従軍慰安婦の問題、植民地支配後の問題、中国や東南アジアへの侵略後の問題、天皇の戦争責任とその制度（John W. Dower 著『敗北を抱きしめて』などを読むと、やはりその存在を疑問に思うのです。）の問題等々今もって何一つ解決できていない、しようしない（権力者や私も含め、市民も）ことに、果たして日本が本当に独立した民主的な国なのであろうかということです。由比さんの問いに答えていない自分の力や行動を恥いるのです。

以前焼津の合宿で、多分前もってB5、1枚くらいのエスペラントの文を書いてくるようにという宿題が出ていたと思うのですが、私の答案の要約は、“Formoso 台湾と Ĉina Komunista Partio 中共とを秤に賭ける日本政府やり方は、卑劣だ、少なくとも台湾に住む内省人や先住民の人たちは親日的であり、外省人の中華思想を捨てて、麗しき島台湾は、独立すべし。”でした。当時マスコミの論調や知識人という左翼の人たちの大勢は、台湾に逃げて来、その島を支配した国民党の中華民国という幻の小国を切り捨て、実存する大国中華人民共和国を国連へ迎えるのが当然と考えられていたので（私も取り立ててそれに反対する考えではなく、市民目線からそこで暮らす人々の思いを感じ取り文章にしたつもりでした。）、私の突飛も無い意見は、合宿で白眼視

され、大いに鬨蹙をかったのです。

しかし私は、大学卒業してその夏、台風の中、船で3日（沖縄とその島々経由で）かけて、蔣経国の時代（非常事態宣言下？あるいは戦時体制下）の台湾（主に南北の西側）を、旅行した経験がありましたし、市民から得た何か温かみのあるものがありましたので、そんな意見を書かせたのでしょう。（親日的というのは、必ずしも正しいとも言えないことが、後日分かりました。そうせざるを得ない事情があったということも分かりました。しかし、李登輝以後、台湾語を北京語とともに国語としたり、植民地下の日本によるインフラ整備について事細かに調べ、その顕彰までもする心の豊かさには敬服します。）

今台湾の民主化を目の当たりにし、今日の中国による市場経済主義や民主化弾圧、チベットや少数民族の独立封印策をみて、何をか況やです。中共の文化大革命に反対声明を出し右翼と目された、川端康成や三島由紀夫らの行為はきちんと検証されたのでしょうか？文化大革命を支持した知識人は、今どう落とし前をつけているのでしょうか？

私にとって、自分がエスペランティストである、とカミングアウト（ほんな大層な！）することは、非常に重たいことでもあるのです。できるだけ政治的なことから逃げてきた私としては、浄土真宗の坊主となった今、より由比さんのことが頭を過ぎるのです。

今年2011年のザメンホフ祭に参加し、皆様が生き生きと活動をされているのを見て、Mia eterna gvidantino 田平正子さんに私は“やっと高い壁が越えられました”と吐露したところ、京都ロンドには初めから壁などありませんよと、窘められたのですが、壁は私が一人で築いていた壁で、他の人にそんな壁を築けとは言いませんし、言う権利もありません。自由に自己流に学ばばいいし、あるいは遊ばばいいのは、よく分かっているつもりです。

(2011年12月11日)

(17 ページより)

「国際語」は、多くの方がさっと見るだけの展示には不向きだ。特に、以前京都エス会も何度か参加した「ボランティアフェスタ」のような場では、他の展示のついでにエスペラントもというかたちで、ちらりと何秒か見るだけの人も多い。

パンフレットなら「国際語」も使えるが、展示やザメンホフ祭のチラシでは、やはり「国際語」「国際共通語」がいちばん無難ではないかと、現時点では思っている。

(2011年12月13日)

「国際語」「世界共通語」「民際語」「地球語」

相川節子

講習会やイベントのチラシをつくる時、「エスペラントとは何ぞや、をまず説明しなければならぬのはめんどろだな」と毎回思う。同じサークル活動でも、たとえば「社交ダンス」「写真サークル」「英会話」などは、何の説明も要らない。しかしエスペラントは、名前だけではわからないから、「国際語」だの「世界共通語」だのを付け加えることが必要になってくる。さて、何を付けるのがいいか。

<国際語>

「エスペラントなんて初耳」という人に、いちばんわかりやすいのはやっぱりこれだと思う。しかし、「国際語」と聞くとまず英語を思い浮かべる人が多く、それより先に思考が進まないのでは、という意見がある。

<民際語>

「国際」は国と国との関係。しかしエスペラントは国家どうしではなく、民族と民族、民衆と民衆をつなぐ言語だという考えで「民際語」という名称を使う人もいる。ザメンホフは最初からこの言語を *internacia lingvo* と呼んでいたし、それを正確に日本語訳すれば、たしかに「国際」ではなく「民際」になる。

<世界共通語>

民族語に方言と共通語があるように、現存の民族語は“方言”の位置付けで、世界の共通語としてはエスペラントを、という考え方による名称と思う。

<地球語>

わたしが「地球語」という名称を初めて目にしたのは小林司著「4時間で覚える地球語エスペラント」だったが、それより前にも使った人がいるかも知れない。

不特定多数に呼びかける展示やチラシでは、どの言い方がふさわしいだろう。

「国際語って英語じゃないんですか」という人は実際に多い。しかし、そういう人に「世界共通語」「地球語」「民際語」と言っても、わからないのは結局同じだと思う。どの民族にも国家にも属していない言語の存在を想像すること自体が、一般の人にはむずかしいのではないか。

「世界共通語」「地球語」は、“現存する民族語を廃止して世界の言語を統一するのが目的”という誤解を生む可能性がある。エスペラントは誕生の初めから、それぞれの民族語を尊重する姿勢をとっているが、それは説明しないとわかってもらえない。

(16 ページの下へ)

Epokfara kongreso vere komuna inter 2 landoj

SASANUMA Kazuhiro

Antaŭ 2 jaroj min surprizis la informo ke la Japana Kongreso en 2011 okazos en Koreio kune kun Korea Kongreso. Kvamkam mi mem ne estas diligenta partoprenanto de Japana Kongreso, ĉi-foje mi forte deziris partopreni en la komuna kongreso. Ĉar tio estas tre malofta ŝanco ĝui internacian eventon en nur kelkaj tagoj.

Koreio estas por mi la plej intima lando en la mondo. Kompreneble ĝi situas tuj najbare de Japanio kaj havas profundajn rilatojn. Krom tio, mi mem jam vizitis ĝin 2-foje por partopreni esperantajn eventojn. La unua vizito en 1984 estis por la 3-a Komuna Seminario, kaj la dua en 1994 estis por la 79-a Universala Kongreso kaj la 50-a Internacia Junulara Kongreso.

En la 7-a de Oktobro mi prenis 1-tagan ferion, kaj kun membroj de JEI-karavano veturis al Koreio post 17 jaroj. En vespero ni atingis la kongresejon en Urbo Seongnam [城南], sude de la ĉefurbo Seulo.

En la nokto de la 1-a tago ni havis komunan tempon nomatan interkona vespero. En la programero ni ĝuis kantojn, dancojn, kaj pupteatraĵon. Post la fino de la planitaj prezentaĵoj, la korea prezidanto subite anoncis, ke sekvos “kanteja tempo”. Tuj aperis “Karaoke”-aparato, oni servis bieron kaj manĝaĵon, kaj komenciĝis pli gaja tempo. Verdire estas malpermesite manĝi aŭ trinki en la seminaria ĉambro. Ni kongresanoj neatendite ĉeestis en la kaŝita bankedo. Ĝis meznokto ni, kanto-amaj popoloj laŭvice kantis kantojn japanajn, koreajn, ktp. En tre intima atmosfero komenciĝis nia komuna kongreso.

(要約)

初の日韓合同エスペラント大会は、わずか数日で国際大会に参加できるめったにない機会ということで、迷わず申し込んだ。大会1日目の晩は、プログラム外のカラオケ大会で、両国の参加者が一緒に大いに盛り上がった。2日目の分科会では、キムチ作りなど韓国の文化に触れられるものに参加した。ほぼ共通プログラムだけの完全な合同大会は、30年の歴史があるKSの伝統の上に実現したように思える。



du koreoj (maldekstre) kaj japano (dekstre) kune kantas

En la sekvanta tago post la inaŭguro oni preparis diversspecajn fakkunsidojn. Mi ĉeestis 2 kunsidojn en kiuj mi povis tuŝi korean kulturon.

La unua estas pri akupunkturo. Korea gvidanto klarigis la teorion ke manoj reflektas korpan malsanon, kaj provis kuraci kelkajn ĉeestantojn sur mano kaj fingroj. Japanaj kaj koreaj malsan'et'uloj kun granda intereso rigardis kuracadon. Tiu kuracmetodo ne havas longan historion, sed baziĝas sur la tradicio de korea akupunkturo.

La dua kunsido estas "Gustumi Gimĉion (Kimĉi)". Veterana korea samideanino "Vera" (karesnomo de AN Jin-sim) kun lerta Esperanto gvidis kiel fari bongustan gimĉion. En la kunsido kolektiĝis kelkdek gimĉi-amantoj. Eble tio estas la plej populara fakkunsido en la kongreso. "Vera" faris abundan gimĉion de brasiko kaj liveris ĉeestantojn. Ĝi estis tre akra sed havis profundan bonguston, tial ĝi tuj malaperis. Ni sufiĉe gustumis korean tradicionan manĝaĵon kun rizvino "makkori" kaj brando "soĵuo (ŝooĉuu)".



“Vera” kaj
bongusta gimĉio

Mi ne scias detalajn enhavojn de aliaj fakunsidoj, sed estis klare ke ĉiuj fakunsidoj estas ne por japanoj, nek por koreoj, sed por ĉiuj partoprenantoj. Verdire antaŭe mi supozis ke 2 kongresoj (Japana Kongreso kaj Korea Kongreso) okazas paralele kaj nur kelkaj programeroj estas komunaj. Tamen tio estis tute erara. Ĉi tiu kongreso estas perfekte “komuna” same kiel Komuna Seminario inter korea kaj japana (kaj ĉina) junularoj. KS jam havas 30-jaran historion, kaj ĉi-jara jubilea Seminario okazis en la sama tempo kaj la sama kongresejo. Krom tio en la partoprenantoj de komuna kongreso troviĝas iamaj organizantoj de komencaj KS-oj. Mi pensas ke surbaze de KS efektiviĝis tiu epokfara kongreso.

Posttagmeze de la 3-a tago estis la ferma ceremonio, kaj poste japanaj partoprenantoj ĝuis duontagan ekskurson. Frumatene de la sekvanta tago mi forveturis de la kongresejo kaj la kongreslando. Tiu mallonga vojaĝo por mi estas reveno al Esperantio. Mi forte pensis ke “kie esperantistoj troviĝas, tie estas Esperantio.”

(Fino)

京都観光案内 Turismaj informoj pri Kioto (2)

Aikawa Setuko

前号では京都駅周辺をとりあげました。今回は西へ飛んで、金閣寺・嵐山などを解説します。

前号で書き忘れましたが、固有名詞はヘボン式を使っています。個人的には訓令式派なのですが、ヨーロッパ言語の観光案内とつき合わせて読む人の便利を考えてのことです。

Ĉi-foje mi skribas pri vidindaĵoj en okcidenta parto de Kioto.

(2)-a Kinkaku-ji [kinkaku-ĵi] 金閣寺

La oficiala nomo de la templo estas Rokuon-ĵi [rokuon-ĵi], sed la kroma nomo “Kinkaku-ĵi” estas multe pli bone konata. “Kinkaku” signifas “ora pavilono” kaj “ĵi” signifas budhisman templon.

Ĝi estis vilao de ŝoguno (la ĉefo de feŭd-estroj) en la 14-a jarcento. Post lia morto oni faris ĝin templo laŭ lia testamento.

En la vasta tereno oni vidas belan ĝardenon kun lago kaj malnovajn domojn, kiuj funkcias kiel templo de zen-sekto.

La plej fama konstruaĵo estas Shariden [ŝariden], alinome Ora Pavilono. “Shari” signifas ostopecon aŭ cindron de Budho kaj “den” signifas domon. Laŭ religia vidpunkto la pavilono estas sankta pro tio, ke oni konstruis ĝin por tie konservi kaj adori “shari”. Sed turistojn interesas la beleco de la domo, kiu estas kovrita de orfolioj kaj harmonias kun la ĝardeno. La aŭtentika Ora Pavilono estis perdita pro fajro en 1950, sed oni rekonstruis ĝin fidele imitante la originalon. Bedaŭrinde turistoj ne rajtas eniri internen.



(2)-b Ryoan-ji [rjooan-ĵi] 龍安寺

Ryoan-ji estas budhisma templo, kies ŝtona ĝardeno estas fama.

Ĝi estis vilao de nobelo kaj fariĝis templo en la 15-a jarcento.

Kvankam ĝi apartenas al zen-sekto same kiel Kinkaku-ji, la aspekto estas malsama. Ryoan-ji aspektas pli malluksa kaj la fama ĝardeno estas malgranda. La ĝardeno konsistanta nur el ŝtonoj, sablo kaj musko, donas alian etoson ol Kinkaku-ji.

En koridoro estas modelo de la ĝardeno el sablo kaj ŝtono. Blinduloj povas scii palpante la modelon, kia estas la ĝardeno.

La tereno estas vasta kaj ĝi enhavas ankaŭ ordinaran ĝardenon kun lageto.



La Ŝtona Ĝardeno

(2)-c Uzumasa Eiga-mura (parko de filmado) 太秦映画村

“Eiga” signifas filmojn kaj “mura” signifas vilaĝon.

La loko estis studio, kie oni faris filmojn. En 1975 ĝi estis malfermita al publiko (kontraŭ pago, nun 2200 enoj por unu vizitanto). En la vilaĝo oni povas vidi domojn, stratojn kaj teatrojn, kiuj estas efektive uzataj en filmado por fari filmojn pri edo-epoko aŭ meizi-epoko. Se vizitanto estas bonŝanca, li aŭ ŝi povas vidi efektivan filmadon.



Urbo en la epoko EDO



Ninjo (pupo) moviĝas per ŝnuro.

Juĝejo en la epoko EDO



(2)-d Arashiyama [araŝijama] 嵐山

Arashiyama estas geografia nomo, kiu montras parton de la urbo Kioto. Tie oni vidas montojn, riveron kaj pontojn. Agrabla promenejo kun bela pejzaĝo.

Tie troviĝas temploj budhismaj kaj ŝintoismaj. Plej fama estas Tenryu-ji [tenrjuu-ĵi].

Sur unu el la montoj estas parko, kie oni povas vidi sovaĝajn simiojn.



La templo Tenryu-ji

(Daŭrigota)

Mia sepdekjariĝo

TAHIRA Masako

En la 27a de decembro 2011 mi estos sepdek-jara. Ĉu gratulinde aŭ malgratulinde?

Tute ne atendite al mi venis maljuneco, malforteco kaj malbonfarteco, kvankam jam de longe mi al kutimiĝis al la doloroj de la ŝultroj kaj lumboj kaj vizitadas Seitai-terapiiston (ĉu "perman-terapiisto"?).

Nun forte doloras min la genuoj, lumboj, ŝultroj kaj brakoj, dum la lango ankoraŭ bone funkcias por babili kaj manĝi. Malfacilas eksidi, ekstari, piediri, bicikli, (mal)supreniri ŝtuparon, (mal)vesti min kun malliberaj genuoj kaj brakoj. Ĉu mi resignaciu belan revon danci vienan valson elegante kaj argentinan tangon pasie kun bona partnero?

Ŝajnas, ke la kaŭzo de la problemoj devenas de malfortiĝo de la muskoloj, kaŭze de tro longa sidado sen seĝo rekte sur tatamo antaŭ la komputilo. Ankaŭ influas tre malregula vivo (ĉu dormi aŭ ne dormi, ĉu manĝegi aŭ ne manĝi).

(Mal)dormemo ĝenas min. Kiam mi legas libron, aŭskultas prelegon, atakas min dormemo. Kiam mi decidas dormi nokte, atakas min maldormemo. Mi ofte forgesas la nomon de konatoj, kvankam mi klare scias kiaj ili estas. Mi timas, ĉu mi ne forgesos miajn telefonnumeron kaj poŝtkodon, poste adreson kaj fine mian edzon!

Kiam mi estis juna, mi neniam kredis, ke ankaŭ mi maljuniĝos kiel miaj gepatroj, duongepatroj kaj bogepatroj. Mi kompatis ilin malrapidaj kaj malfacilaj movi sin. Sed ili estis ne tiel plendemaj kiel nuna mi pri sia sorto. Eble ili saĝe evitis malagrablighi min per vanaj vortoj. Nur nun mi multe dankas ilin, kiuj paciencis kaj forpasis.

(要約) 「70歳」肩こり腰痛は昔からで整体師に通っていたが、日頃の生活がでたらめでちっとも治らなかった。70歳を前にして両膝と左腕が不自由になり、座る、立つ、歩く、自転車に乗る、階段の上り下り、服の脱ぎ着の痛みが耐えられなくなり、ついに医者のお世話になった。

Mirindas, ke miaj amikoj, kiuj pli aĝas ol mi, ne grumblas pri sia maloportuneco de maljuniĝo. Iuj silente malaperas el la aktivejo por ne ĝeni plijunajn homojn. Kiel vi vidas, mi restas tre infaneca diri ĉion, kion mi sentas malkontenta, kiel infano krias, ĉu ne?

Mi havas ŝokon en veturiloj, ke aliaj pasaĝeroj vidante min staranta cedas al mi seĝon, kvankam mi mem ofte cedis seĝon al aliaj maljunuloj. Kiam mi malfacile supreniras ŝtuparon, preterpasanto diras, ke proksime troviĝas lifto. Eble sen mia konscio sur mia vizaĝo mi skribas, ke mi maljunas kaj petas helpon, ĉu ne?

La urbo Kioto donis al mi senpagan karton kun la nomo "respekti maljunecon" por veturi aŭtobuse (kaj ankaŭ metroe) post mia pago de la jarkotizo 3000 enoj okaze de la sepdekjariĝa monato.

Ĝis nun escepte de pluva tago mi biciklis preskaŭ ĉien en la urbo por ŝpari koston de veturiloj. Fakte rekte bicikli pli frue atingas celon ol veturi buse. Sen biciklo mi devas piediri al bushaltejo kun peza sako, atendi buson, malrapide aŭtobusi pro trafika problemo centre de la urbo, piediri de haltejo al la celo denove kun peza sako. Ekzemple necesas al Esperanto-domo bicikle 30 minutoj, aŭtobuse (per du busoj) unu horo.

Mi nun cerbumas, kiu estos pli avantaĝe por mia korpo, ĉu aŭtobusi aŭ bicikli, eĉ se ne paroli pri frueco atingi celon.

Neuzataj muskoloj pli kaj pli malfortiĝas. Sed ankaŭ porti pezan sakon sen biciklo influos al la genuoj kaj ŝultroj. Krome mi ne havas tempon, monon kaj emon viziti sportan klubon por hardi la muskolojn.

Sed mi trovas ankaŭ avantaĝon en aŭtobuso. Ne necesas timi, ĉu mia surstrate parkita biciklo estos "arestita" de la urba administrejo, kiu malpermesas parki surstrate kaj transportas biciklojn al malproksima "malliberejo de bicikloj". Por ricevi la transportitan biciklon mi devas longege veturi al la "malliberejo", pagi 2300 enojn da "punmono" kaj rebicikli hejmen. Perdo de tempo, mono kaj energio.

En veturilo mi povas legi libron, dum en biciklado ne. Antaŭ la edziniĝo mi neniam biciklis. Dum la atendado ĉe bushaltejo kaj tramhaltejo mi legis librojn, kaj eĉ

kantis mallaŭte. Multajn Esperantajn kantojn mi parkeris ĉe la haltejoj. Ĉu vi kredas, ke dank' al tio mi povas kanti la himnojn "La Espero" ĝis la tria strofo, "La Tagiĝo" ĝis la sesa strofo kaj aliajn kantojn? Miaj Esperantaj Tankaĵoj kaj Hajkoj naskiĝis en nokta aŭtobuso en kiu mi ne povis dormi.

Estis malnova bona tempo sen komputilo. Mi reiru al mia juneco. Mi vivu malrapide, legu multe, kantu plezure, Tankaumu kaj Haikumu se mankas lumo en buso!

(2011-12-01)

(daŭrigo)

Poste nun, finfine mi kun tro da doloroj de la genuoj malrapidege iras eĉ al hejma necesejo, kaj dum nokto la doloroj maldormigas min. Mia edzo akompanis min al kliniko. Kiel supozite, kuracisto diagnozis min pri "artrozo".

<<http://eo.wikipedia.org/wiki/Artrozo>>

Ne temas pri artefarita rozo! La kuracisto injektis en ambaŭ genuojn kvar medikamentojn kaj en la maldekstran ŝultron unu. La kvin injektadoj tre dolorigis min. Mi devos daŭre vizitadi la klinikon.

Li konsilis min: ne tro laboru, havu regulan vivon, dormu bone, ne sidu sur tatamo, ne portu pezan pakaĵon, distru min post laciĝo. Mi mem jam bone sciis ĉion. Sed mia obstineco malhelpis min. Almenaŭ mi distris min post longa laborado antaŭ la komputilo, aĉeti ĉiutagaĵojn, bicikli al kinejo por vidi plaĉan filmon, kunveni en diversaj movadoj pri homaj rajtoj kaj ekologio ekster Esperantujo.

Mi ne scias, ĝis kiam mi povos aperi antaŭ vi. Mia sekreta revo estis volontule voĉlegi esperantajn gazetojn por vidhandikapitaj esperantistoj, kiam mi ne povos ekstereniri. Sed mi perdis memfidon, ĉar artefaritaj dentoj tre malbeligis mian prononcadon.

Ĉu mi kuraĝos aŭkcii en Esperantaj eventoj kiel ĝis nun, eĉ sur rulseĝo kriante "100 enoj, 200 enoj, 300 enoj, 400 enoj!"?

Vidu, kio okazos al mi.

(2011-12-15)

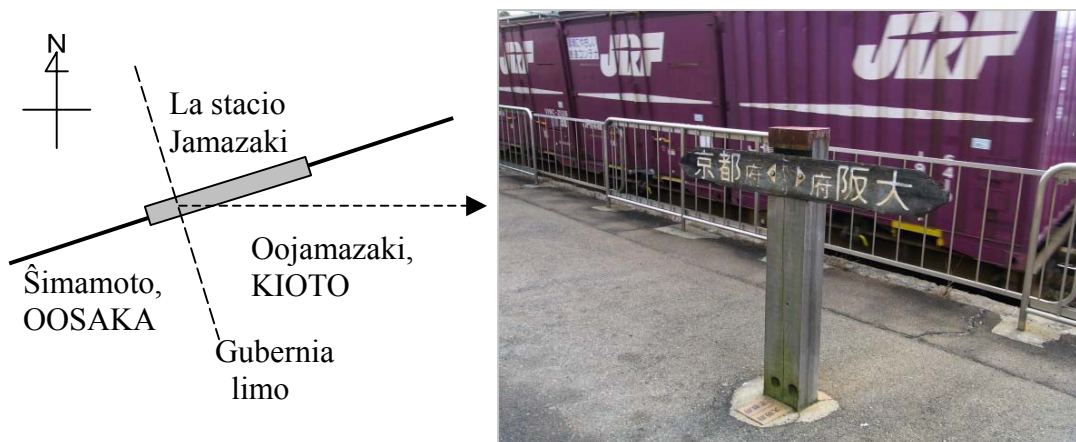
Prezentado de la urbo OOJAMAZAKI

KAWAGOE Kan

La urbo OOJAMAZAKI (大山崎) troviĝas en la okcidenta loko de la gubernio KIOTO. Kaj ĉi tiu urbo enhavas malnovan longan vojon “Saigoku Kaidou” (西国街道) de KIOTO al la urbo NIŜINOMIJA.

Ĉi tiu urbo estas la plej malgranda en la gubernio KIOTO. La nombro de loĝantoj estas ĉirkaŭ 15,000 personoj.

Estas interese, ke la stacidomo de JR-Jamazaki estas dividita de la du gubernioj. Kaj sur la kajo de la stacidomo estas instalita indiktabulo de la gubernia limo.



Indikilo de la gubernia limo

Ĉirkaŭe la kunfluo de tri riveroj kiel Kizu, Uji, kaj Kacura troviĝas en ĉi tiu loko kiu enhavas la regionon de Oosaka.

Pri historio tie troviĝas la fama monto nomata “Tennoozan”, kie batalis generalo Tojotomi Hidejoŝi kontraŭ Akeĉi Micuhide. Sed Micuhide estis venkita. Oni diris ke tio estas maldaŭra potenco de Micuhide, tri-taga regado de Micuhide. Lastatempe Tennoozan estas fama por ekskurso kaj turismo.

Oojamazaki ankaŭ havas kelkajn historiajn kaj vidindajn lokojn; unu el ili estas “Taian” la teĉambro desegnita de “Rikjuu” (利休), agnoskita kiel Nacia trezoro.

Oojamazaki atendas vian viziton. Bonvolu veni al nia urbo. Vi estas ĉiam bonbenaj.

(Fino)

エスペラント会館での定例の会合

エスペラント会館（住所は下記参照、電話 075-343-3120）での定例の会合は次のとおりです。参加しましょう。

名称	日時		内容
聖書を読む会	月1回 第1月曜	午後1～4時	相川節子さんが主催。参加者は約10人。1回300円。
エスペラントおしゃべり会	毎週月曜日	午後7～9時	田平正子さんが主催。参加者は5人前後。費用は1回300円。
京都エスペラント会 昼の例会	毎週水曜日	午後2～4時	参加者は5人以上。女性が中心。
京都エスペラント会 夜の例会	毎週水曜日	午後7～9時	参加者は5人以上。月1回はLa Movado や事務局通信の発送日。

La Redaktoro babilas ...

97号(2009年4月)～101号(2011年7月)では表紙等の4頁分をカラーにしましたが、今号は白黒に戻しました。白黒プリントだけであれば、プリンター複合機で自動製本(紙の半分折り、用紙中央でのホチキス止め)が行えるためです。これにより、手作業で行っていた製本作業が不要となり、大変楽になります。

写真をカラーで楽しみたい方は、パソコン等で電子版をご覧ください。電子ファイル(PDF)は次のアドレスからダウンロードできます。

<http://cid-843fe5eeb586235d.skydrive.live.com/summary.aspx>

Al Vi Kara N-ro 102, eldonita en la 14a de januaro 2012

京都エスペラント会 Kioto-Esperanto-Societo

◎事務局

〒600-8455 京都市下京区西洞院五条上る八幡町 537-6 エスペラント会館

電話・FAX : 075-958-2475 (川越 幹)

ブログ : http://d.hatena.ne.jp/esperanto_kioto/

電子メール : esperanto_kioto@yahoo.co.jp

会費 : 正会員 年7,200円 準会員 年3,600円

Al Vi Kara 購読費 年1,000円

ゆうちょ銀行(郵便)振替口座 : 01000-4-9895 口座名 : 京都エスペラント会

◎Al Vi Kara 編集局

連絡先 : 〒618-0071 京都府乙訓郡大山崎町大山崎尻江 13-8 森川和徳

電子メール : kz_morikawa@yahoo.co.jp

ファックス : 075-955-1627